



エコパートナーシップうじたわら

うじたわらの木くん

～茶文化の源 水・緑・生命の環を育む和みのまら～

発行日：2023年5月21日（第95号）

編集・発行：エコパートナーシップうじたわら広報部会

事務局 TEL（88）6639 FAX（88）3231

2023年度総会を開催します

6月4日（日）午後2時

宇治田原町総合文化センター研修室1

エコパートナーシップうじたわらは、住民・事業者・行政が協働で「宇治田原町環境保全計画」を推進するため平成16年に設立された団体で、環境学習やエコクッキング、会報誌の発行などの活動を行っています。

新型コロナウイルスの感染拡大も一定の落ち着きを見せ、今年も例年どおり総会を開催いたします。総会後は一般向けの講演会も開催しますので、お気軽にお越しください。

参加者には「京都府生物多様性フィールドノート」を贈呈します（数に限りあり）。

- ・ 講演：テーマ「見通せない電気代を見通す ～気候危機とエネルギー危機の中での身近な取組～」
- ・ 講師：木原浩貴氏（京都府地球温暖化防止活動推進センター副センター長）



京都府地球温暖化防止活動推進センターとは？

京都府内の温暖化防止に向けた取り組みをサポートする組織で、平成15年10月に、地球温暖化対策推進法に基づいて京都府知事から指定を受けて活動を開始しました。センターは京都府地球温暖化対策条例で「地球温暖化対策を担う中核的支援組織として、事業者、府民及び環境保全活動団体の積極的な取組を促進する役割を果たす」と位置づけられ、多くの皆様とパートナーシップで「脱炭素型のステキな京都」の実現を目指し活動を行っており、「NPO 法人 京都地球温暖化防止府民会議」が運営しています。

エコパートナーへの入会を希望する方は、当日も受付します。

雨音

一人ゆっくりくつろぎながら、しとしと降る雨音を聞くのも、なかなか風情がある。清少納言も楽しんだ、日本の素敵な季節感。

しかし、人間の活動が、大切な季節感を破壊しはじめ、大雨や酷暑、海面上昇等を運び込み、人間自らの命までも、脅かしている。

子々孫々は言うまでもなく、姫様はじめ次の世代を生きる若者に、この季節感を残してあげたいものである。

二酸化炭素ゼロの目標年まで、あと27年。30年をきった。

エコパートナーシップうじたわら会長 芦原 昇

花粉症と黄砂

エコパートナーシップうじたわら 自然生活部会長 岩瀬 剛二

季節の風物詩と言えなくもないが、毎年3月中旬頃になると花粉症に悩まされる。もう少し早いスギ花粉の時期はたいしたことはないので、おそらくヒノキ花粉に反応しているのだろう。以前、市販薬を飲んで肝機能障害が出たことがあるので、必ず医者にかかって処方薬を飲むことにしている。花粉症をお持ちの皆さんも市販薬にはお気を付けください。弱い薬だとほとんど効かないが、強い薬は効きすぎる。ちょうどよい薬に当たらないものかと思うが、今回もらった薬は私には合っていたようだ。アレルギーは個人差が大きく、万人に効く薬はないのが大問題。私は、ハウスダストにも反応するので、大掃除は大敵である。ハウスダストの主成分は自らの皮膚の切れ端や、それを食物としているダニだと思われるので、普段の掃除が重要なのだと思う。ごく最近、縁あって亡くなった古い友人のきのご関連の遺品整理を行っているが、けっこう埃まみれのため、鼻水で悩まされる。早く終わらせたいが、未整理のまま大量に残してくれているので、ため息が出る。今年は、黄砂の発生回数も発生量も多く、ニュースになっていたが、発生起源である中国やモンゴルの砂漠を緑化等によって減らすしか問題は解決しないだろうが、彼の地の人々がそれに注力するとも思われれないので、我慢するしかないか。最も、日本よりも発生起源に近い中国や韓国はもっと悩まされているので、いやなら早く何とかしろ・・・である。問題は、黄砂に付随して大量の大気汚染物質（PM2.5等）が飛来すること。以前、少しだけだがモンゴルの緑化プロジェクトに関わっていたことがあるが、砂漠緑化は極めて難しい。時間もお金も労力もかかる。さて、そんな季節もそろそろ終わり、また来年・・・だろうか。

「雑草という草はない」

エコパートナーシップうじたわら 運営委員 村林 利高

私が勤める須河車体株式会社の本社工場が立川に移転してから早いもので2年になります。前本社工場の約二倍の敷地面積となり、その広大な工場的美観維持管理は想像以上に大変です。昼休み明けの15分間は経営者も含め全従業員で社内の清掃活動を行っています。自分の職場や身の回りが主ですが、中には植え込みの雑草を抜いたり、草刈り機で除草したりする者もいます。私も草むしりをしていて多くの「雑草」を目にしますが、NHKの朝ドラでモデルになっている牧野富太郎博士の言葉に「雑草という草はない」というのがあります。確かに年間を通して「雑草」と呼んでいる植物に触れあっていると、根がとても太いもの、抜こうとするとトゲがあって痛いもの、白い汁が出るもの、他の植物に巻き付いて上を目指すもの、群れるもの、孤軍奮闘するもの等、個性豊かで多種多様なものが見られます。そして皆、美しい花を咲かせ、種を残す営みがあります。

かつて昭和天皇も、侍従が吹上御所で「雑草」を刈ったことを伝えたところ、「雑草ということはない」とたしなめられたそうです。

「雑草」という言葉でひとくくりにして見るか、ひとつひとつの草花に目をむけるか、これは人に対しても同じ事が言えると思います。

先日、生まれてはじめて四つ葉のクローバーを社内で見つけました。

皆さんにもいいことがありますように。

「シロツメクサの花が咲いたら、さあ行こう〜♪」
私を含めて、ある一定の世代以上の方にはおなじみのフレーズですね。



エコパートナーシップうじたわら賛助会員

宇治田原町 宇治田原工業団地管理組合 宇治田原町区長会
須河車体株式会社 宇治田原町森林組合

エコパートナーシップうじたわら事務局 (宇治田原町建設環境課内)

〒610-0289 京都府綴喜郡宇治田原町大字立川小字坂口 18-1

TEL 0774-88-6639 FAX 0774-88-3231 Eメール: junkan@town.ujitawara.lg.jp

会報のバックナンバーをご覧ください

宇治田原町役場HP「MENU(くらし・手続き)」⇒「生活・環境」⇒「エコパートナーシップうじたわら」



茶文化の源 水・緑・生命の環を育む和みのまち 宇治田原